

サヤエンドウ

栽培管理が楽で、失敗も少ないサヤエンドウ。店頭売りでは得られない新鮮さが魅力で、家庭菜園にはぜひ取り入れたい野菜です。

板木技術士事務所 板木利隆



月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

栽培計画

露地栽培 (寒冷地)			○			●						
露地栽培 (温暖地)					●					○		

○ 種まき ● 収穫

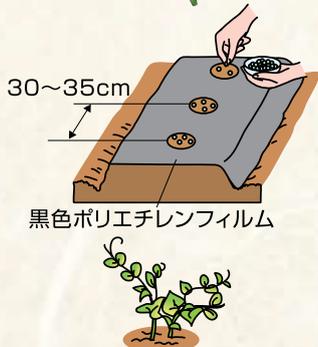


取れ立ての新鮮な味が格別なサヤエンドウ

カロテン含有量が多く、分類は緑黄色野菜。ビタミンC、食物繊維も豊富。使い道はサラダや汁の実、煮物にと広く、飽きずに重宝します。育て方のポイントを列挙します。

- (1) 連作畑を避ける。
- (2) まきどきを誤らない。
- (3) 冬に株が風で振り回されないうような仮支柱、風よけを設ける。
- (4) 伸びだしたつるがよく絡むよう、しっかりとした支柱を立てることなどです。

サヤエンドウは野菜の中でも特に連作を嫌う性質があります。4〜5年はサヤエンドウを作ったことのない畑を選びましょう。種まきの適期は関東南部以西の平たん地では10月20日前後ですが、これより寒い地域では少し遅

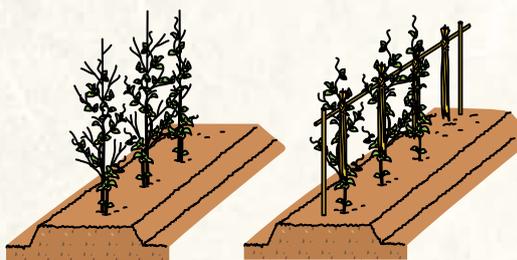


発芽し伸び始めたなら2本を残して他は間引き

く月末ぐらい、暖かい地域では少し早くまくぐらいに差をつけましょう。寒い地域で早まきすると、大きく育つてから厳しい寒さに遭うため寒害を受けやすくなります。地域の慣行をよく調べてください。

サヤエンドウは茎葉が柔らかく、越冬中に株が風に振り回され、茎が折れたり枯死したりしやすいので、草丈が15〜20cmに伸びたら短い支柱を交差させて立て、株を固定したり、畝に沿って稲わらを半折れにし、下方を土に埋め、簡単な風よけを作ったり、べた掛け資材で覆ったりして寒風から守ってください。

越冬後草丈が20〜25cmぐらいになる頃には巻きひげも出るので、早めに支柱を立て、これに絡ませるよう誘引してやりましょう。支柱材としては、細枝のたくさん付いたササや、子枝の付いた木の枝などが最良ですが、入手できない場合は、木杭に横竹を渡し、所々に稲わらを小束にしてつるす方法、それらがなければ果菜用の支柱材を立て、横に3段ほどプラスチックひもを渡したり、キュウリの誘引ネット（網目15cm）を取り付けるなど、いろいろ工夫してみましよう。



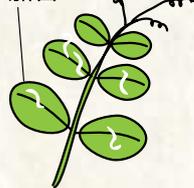
竹ササや木の枝につるを絡ませる

支柱を立て、稲わらをつるを絡ませる

肥料分は多くは必要ないので、前作に野菜を育てた畑なら、越冬前に畝に沿って軽く溝を作り、1株当たり化成肥料大さじ2杯ぐらい、本支柱を立てた後に、畝の反対側に同量を施し、土を盛り上げて畝を形作るぐらいで足りるでしょう。

薬剤散布

ハモグリバエの幼虫の加害



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

JAグリーン津店が教える！栽培のポイント

種まき適期は10月下旬ごろです。耐寒性は本葉2〜3枚のころが最も強いですが、花が咲くころは耐寒性が低下し寒害・凍害を受けやすくなりますので、草丈が10〜15cmほどで越冬するよう種まき時期を選びましょう。

エンドウのつるは中が空洞なので、風で折れやすく、特に寒風に当たると枯死株ができません。霜害が出やすい畑では厳しい寒さの前に風上側に防風ネットを張るか、葉上にべた掛け資材で寒風から守りましょう。

春先になりつるが伸び始めたところに遅れずに支柱をしっかりと立てましょう。つるが絡み付きやすい木の枝が入手できれば一番良いですが、なければ木杭を打ち横竹を渡して稲わらを小束にして吊るすのもよいでしょう。

おすすめ資材

〈堆肥〉 完熟発酵牛ふん

〈石灰資材〉 苦土石灰

〈元肥〉 化成24号（8-8-8）

〈殺菌剤〉 うどんこ病・灰色かび病（サンヨール）

〈殺虫剤〉 アブラムシ類、ハモグリバエ類（スタークル顆粒水溶剤）

